

(様式第9)

和医大病第 224 号
平成20年10月 7日

厚生労働大臣様

和歌山県立医科大学附属病院長 畑埜 勲

和歌山県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	134人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)

- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医 師	208人	220人	428.0人	看護業務補助	29人	診療エックス線技師	1人
歯科医師	5人	9人	14.0人	理学療法士	12人	臨床検査技師	42人
薬剤師	29人	0人	29.0人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	人	2人	2.0人	視能訓練士	1人	検査その他	0人
助産師	30人	2人	30.5人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	591人	14人	601.2人	臨床工学技士	5人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	17人	3人	17.0人	栄養士	0人	その他の技術員	14人
歯科衛生士	1人	1人	2.0人	歯科技工士	2人	事務職員	45人
管理栄養士	4人	1人	5.0人	診療放射線技師	31人	その他の職員	31人

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	678人	10人	688人
1日当たり平均外来患者数	1345人	80人	1425人
1日当たり平均調剤数	967 剤		

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
インプラント義歯	有・無	人
顎顔面補綴	有・無	人
顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	0人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
成長障害のDNA診断	有・無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人
神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
重粒子線治療	有・無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
31磷-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
神経芽腫のRNA診断	有・無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素凍結骨移植	有・無	人
脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・無	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	有・無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人
膀胱水圧拡張術	有・無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・無	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・無	人
骨移動術による関節温存型再建	有・無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・無	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	0人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・無	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
腹腔鏡下子宫体がん根治手術	有・無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
カフェイン併用化学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ベーチェット病	8人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	0人
・多発性硬化症	21人	・ウェグナー肉芽腫症	1人
・重症筋無力症	19人	・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	2人
・全身性エリテマトーデス	88人	・多系統萎縮症	0人
・スモン	0人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人
・再生不良性貧血	13人	・膿疱性乾癥	4人
・サルコイドーシス	10人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・筋萎縮性側索硬化症	8人	・原発性胆汁性肝硬変	14人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	41人	・重症急性胰炎	1人
・特発性血小板減少性紫斑病	17人	・特発性大腿骨頭壞死症	2人
・結節性動脈周囲炎	1人	・混合性結合組織病	6人
・潰瘍性大腸炎	55人	・原発性免疫不全症候群	2人
・大動脈炎症候群	10人	・特発性間質性肺炎	2人
・ビュルガー病	2人	・網膜色素変性症	1人
・天疱瘡	4人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	15人	・原発性肺高血圧症	0人
・クローン病	23人	・神経線維腫症	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	1人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	179人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	0人
・アミロイドーシス	0人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・後縫靭帯骨化症	31人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1ヶ月に2回		
剖 檢 の 状 況	剖検症例数 36例	剖検率 7.4%	

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
				補委
				補委
別紙のとおり				補委
				補委

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別紙のとおり			

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

計19

計105

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
遺伝子工学的手法を用いた微小脊髄血管の血流維持機構の解明と麻酔薬作用に関する研究	中畑 克俊	麻酔科学	5,400 (1,620)	補文部科学省 委
造血幹細胞移植後のウイルス感染症早期診断法の研究	吉益 哲	小児科学	600	補文部科学省 委
トランスジェニックマウスを用いた冠動脈収縮機構の解明と麻酔薬作用に関する研究	木本 吉紀	麻酔科学	2,300	補文部科学省 委
ぶどう膜炎に伴う併発白内障の成因と予防法に関する研究	白井 久美	眼科学	700	補文部科学省 委
酸化ストレスの精密測定システム確立に関する研究	平野 繩彦	内科学第3	1,200	補文部科学省 委
自己炎症性疾患制御因子Ttc7のヒトアトピー性皮膚炎発症における役割について	岡本 勝行	皮膚科学	1,700	補文部科学省 委
自然発症型てんかんラットに対する慢性電気刺激、薬物持続注入の発作抑制効果	西林 宏起	脳神経外科学	500	補文部科学省 委
血管収縮に及ぼす局所麻酔薬の構造特異性とタンパクリン酸化酸素の発現	栗山 俊之	中央手術部	900	補文部科学省 委
体温変化が神経シグナルを介する脳微小循環制御に及ぼす影響の電気生理学的解明	堂城 真友子	麻酔科学	1,600	補文部科学省 委

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高血圧ラットにおける揮発性麻酔薬がアンギオテンシン系血管収縮に与える影響の解明	根来 孝明	麻酔科学	1,400	補文部科学省 委
PPAR γ を標的とした眼炎症の治療戦略	宮本 武	眼科学	1,000	補文部科学省 委
ループスエリテマトーデスにおける肥満細胞の多機能性の検討	吉益 隆	皮膚科学	1,800	補文部科学省 委
Cタイプレクチンペア受容体DCIRとDCARによる樹状細胞機能制御機構の解明	金澤 伸雄	皮膚科学	1,700	補文部科学省 委
プロポフォールの代謝における遺伝子多型の影響	時永 泰行	麻酔科学	1,900	補文部科学省 委
難治性中耳炎および副鼻腔炎に対するドラッグデリバリーシステムを用いた治療法の開発	鈴木 正樹	耳鼻咽喉科学	2,600	補文部科学省 委
急性中耳炎の発症におけるウイルス-細菌相互作用における検討	山内 一真	耳鼻咽喉科学	1,600	補文部科学省 委
口腔癌における抗癌剤耐性に関連する遺伝子の解析と耐性克服についての検討	中谷 現	歯科口腔外科学	1,700	補文部科学省 委
小児ネフローゼ症候群に対する初期治療確立を目指した多施設共同臨床研究と拡大臨床試験体制整備	吉川 徳茂	小児科学	61,970 (18,591)	補厚生労働省 委

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
呼気凝縮液を用いた気管支喘息の 気道炎症評価法の確立と臨床応用 に関する研究	一ノ瀬 正和	内科学第3	9,000	補 厚生労働省 委
				補 委

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Diabetes Res Clin Pract. 2008 Jan;79(1):11-7	Ferulic acid prevents pathological and functional abnormalities of the kidney in Otsuka Long-Evans Tokushima Fatty diabetic rats.	Atsuyo Fujita	内科学第一
J Clin Endocrinol Metab. 2008 Jan;93(1):310-4	Polymorphisms in the IDE-KIF11-HHEX locus are reproducibly associated with type 2 diabetes in a Japanese population	Yasushi Furukawa	内科学第一
末梢神経 18(2):p248-251, 2007	糖尿病ポリニューロパシーの危険因子の検討	小河健一	内科学第一

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Intern Med 46: 81-84, 2007	Advances in Pharmacotherapy for COPD	M. Ichinose	内科学第三 (呼吸器)
Chest 132: 890-899, 2007	Overexpression of CD-11b and CXCR1 on Circulating Neutrophils: Its Possible Role in COPD	T. Yamagata	内科学第三 (呼吸器)
J Cell Physiol 210: 99-110, 2007	Prostaglandin E(2) protects human lung fibroblasts from cigarette smoke extract-induced apoptosis via EP(2) receptor activation	H. Sugiura	内科学第三 (呼吸器)
Am J Respir Cell Mol Biol 37: 424-430, 2007	Cultured lung fibroblasts from ovalbumin-challenged asthmatic mice differ functionally from normal	H. Sugiura	内科学第三 (呼吸器)
Pulm Pharm Ther 20: 596-605, 2007	Decreased expression of antioxidant enzymes and increased expression of chemokines in COPD lung	M. Tomaki, M. Ichinose	内科学第三 (呼吸器)
Am J Respir Cell Mol Biol 37: 113-120, 2007	Prostacyclin analogs inhibit fibroblast contraction of collagen gels through the cAMP-PKA pathway	K. Kamio, H. Sugiura	内科学第三 (呼吸器)
International Medical Journal 14: 35-39, 2007	Reduction of Regional Cerebral Blood Flow of Patients with Liver Cirrhosis and Correlation with Serum Albumin	H. Tanaka	内科学第三 (肝臓)
Pulm Pharm Ther 20: 701-707, 2007	Improvement of pulmonary function and dyspnea by tiotropium in COPD patients using a transdermal β -agonist	K. Akamatsu	内科学第三 (呼吸器)

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mod Rheumatol 17: 262-264, 2007	A case of polymyositis with a significantly high level of KL-6 associated with pancreatic cancer	Y. Kida	内科学第三 (肝臓)
Hepatology International 1: 382-386, 2007	Estimated protein intake by urinary urea nitrogen in patients with early stage liver cirrhosis	Y. Kida	内科学第三 (肝臓)
Analytical Chemistry Insights 1: 1-7, 2007	The Influence of Free 3-Nitrotyrosine and Saliva on the Quantitative Analysis of Protein-Bound 3-Nitrotyrosine in Sputum	K. Ueshima	内科学第三 (呼吸器)
Analytical Chemistry Insights 2: 85-92, 2007	Possible impact of salivary contamination on cytokine analysis in exhaled breath condensate	T. Ichikawa	内科学第三 (呼吸器)
Modern Rheumatology 17: 492-495, 2007	Infectious mononucleosis-like syndrome induced by salazosulfapyridine in a patient with rheumatoid arthritis	K. Furukawa	内科学第三 (膠原病)

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Circ J 71(9) : 1376-1382, 2007	Effects of Plasma Adiponectin Levels on the Number and Function of Endothelial Progenitor Cells in Patients With Coronary Artery Disease.	Matsuo Y (松尾好記)	循環器内科
J Am Coll Cardiol 50(10) : 933-939, 2007	Assessment of Culprit Lesion Morphology in Acute Myocardial Infarction, Ability of Optical Coherence Tomography Compared With Intravascular Ultrasound and Coronary Angioscopy.	Kubo T (久保隆史)	循環器内科
Circ J 71(9) : 1473-1479, 2007	Evaluation of Pharmacological Modulation of Nitroglycerin-Induced Impairment of Nitric Oxide Bioavailability by a Catheter-Type Nitric Oxide Sensor.	Imanishi T (今西敏雄)	循環器内科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Clinical Neuroscience	Sublabial transnasal approach with a partial resection of the nasal floor for midline skull base tumors.	Nakao N and Itakura T	脳神経外科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Kyobu Geka. 2008 Jan;61(1):31-5. Japanese.	[Histoculture drug response assay guided concurrent chemoradiotherapy for non-small cell lung cancer]	Tamaki T, Oura S, Yoshimasu T, Ota F, Nakamura R, Shimizu Y, Kiyoi M, Naito K, Hirai Y, Okamura Y.	第一外科
Breast Cancer. 2007;14(4):401-5.	In vitro evaluation of dose-response curve for paclitaxel in breast cancer.	Yoshimasu T, Oura S, Hirai I, Tamaki T, Kokawa Y, Ota F, Nakamura R, Shimizu Y, Kawago M, Hirai Y, Naito K, Kiyoi M, Tanino H, Okamura Y, Furukawa T	第一外科
J Thorac Cardiovasc Surg. 2007 Sep;134(3):789-91.	Relation of waveform of transit-time flow measurement and graft patency in coronary artery bypass grafting.	Hatada A, Yoshimasa T, Kaneko M, Kawagoe M, Yuzaki M, Honda K, Komori S, Iwahashi M, Hayashi H, Yamamoto S, Nishimura Y, Hiramatsu T, Okamura Y.	第一外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Cancer Res 2008 (in press)	Identification of the molecular mechanisms for dedifferentiation at the invasion front of colorectal cancer by a gene expression analysis.	奥 喜全	第2外科
Arch Surg 2008 (in press)	Treatment Strategy of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas Based on Malignant Predictive Factors.	廣野誠子	第2外科
Arch Surg 2008 (in press)	Influence of Overweight on Gastric Cancer Patients after Curative Gastrectomy: An analysis of 689 consecutive cases managed by a single center.	尾島敏康	第2外科
Langenbecks Arch Surg. 2008(in press)	Long-term comorbidity of diabetes mellitus is a risk factor for perineal wound complications after an abdominoperineal resection.	松田健司	第2外科
Langenbecks Arch Surg 2008 (in press)	Liver metastasis as an initial recurrence has no impact on the survival of patients with resectable pancreatic adenocarcinoma.	谷 真至	第2外科
Langenbecks Arch Surg 2008 (in press)	Half clamping of the infrahepatic inferior vena cava reduces bleeding during a hepatectomy by decreasing the central venous pressure.	内山和久	第2外科
Langenbecks Arch Surg 2008 (in press)	Analysis of the prognostic factors and evaluation of surgical treatment for synchronous liver metastases from gastric cancer.	上田健太郎	第2外科
American Surgeon 2008 (in press)	Risk Factors and Management for Massive Bleeding of an Acute Hemorrhagic Rectal Ulcer.	堀田 司	第2外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg 2008 (in press)	Assessment of liver function for successful hepatectomy of hepatocellular carcinoma with impaired hepatic function.	内山和久	第2外科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hepato-Gastroenterology 2008 (in press)	Early conversion from oral morphine to transdermal fentanyl in patients with cancer pain.	谷 真至	第2外科
Surgery Today 2008 (in press)	Prognostic Impact of Treatment Modalities for Patients with Single Nodular Recurrence of Hepatocellular Carcinoma.	上野昌樹	第2外科
Surgey Today 2008 (in press)	Comparison of pylorus-preserving pancreaticoduodenectomy with conventional pancreaticoduodenectomy for pancreatic adenocarcinoma.	谷 真至	第2外科
Anticancer Res 28(4C):2373-7, 2008	Phase II trial of oral S-1 combined with low-dose cisplatin for unresectable advanced pancreatic cancer.	伊奈志乃美	第2外科
Hepatogastroenterology 55(84):1150-2, 2008	Multiple early gastric cancer with gastritis cystica profunda showing various histological types.	辻 俊明	第2外科
Hepato-Gastroenterology 55(84):861-4, 2008	A Collision tumor composed of cancers of the bile duct and ampulla of Vater - Immunohistochemical analysis of a rare entity of double cancer?	廣野誠子	第2外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg 15(4):366-72, 2008	Transection using bipolar scissors reduces pancreatic fistula after distal pancreatectomy.	川井 学	第2外科
Int Surg 93(1):55-8, 2008	Nonhepatocytic malignant mixed tumor of the liver in adults: report of a long surviving case.	庄野嘉治	第2外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg 15(3):304-9, 2008	Laparoscopic splenectomy is a safe and effective procedure for patients with splenomegaly due to portal hypertension.	濱 卓至	第2外科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Hepatobiliary Pancreat Surg 15(3):257-61, 2008	Intraabdominal hemorrhage after a pancreatectomy.	谷 真至	第2外科
Am J Surg 96(3):425-9.2008	Laparoscopic resection of gastrointestinal stromal tumors of the stomach	中森幹人	第2外科
Cancer Sci 99(2):407-13, 2008	Tumor vaccine therapy against recrudescent tumor using dendritic cells simultaneously transfected with tumor RNA and granulocyte macrophage colony-stimulating factor RNA.	中 穎二	第2外科
Int J Oncol 32(2):459-66, 2008	Streptococcal preparation OK-432 promotes the capacity of dendritic cells (DCs) to prime carcinoembryonic antigen (CEA)-specific cytotoxic T lymphocyte responses induced with genetically modified DCs that express CEA.	尾島敏康	第2外科
Langenbecks Arch Surg 393(2):127-33, 2008	An analysis of the factors contributing to a reduction in the incidence of pulmonary complications following an esophagectomy for esophageal cancer.	中村公紀	第2外科
World J Surg 32(1):82-87, 2008	CLIP method (preoperative CT image-assessed ligation of inferior pancreaticoduodenal artery) reduces intraoperative bleeding during pancreaticoduodenectomy.	川井 学	第2外科
Int Surg 92(6):311-3, 2007	Successful interventional dilatation of a complicated stricture of the anastomotic colon: report of a case.	廣野誠子	第2外科
Int Surg 92:187-191,2007	Omental Torsion Secondary to Right Inguinal Hernia: Case Report and Cumulative Review of the English Literature	廣野誠子	第2外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg 14:551-556,2007	Clinical significance of drainage tube insertion in laparoscopic cholecystectomy:a prospective randomized controlled trial.	内山和久	第2外科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Hepatobiliary Pancreat Surg 14:545-550,2007	Prognostic factors for long-term survival in patients with locally invasive pancreatic cancer.	谷 真至	第2外科
Hepato-Gastroenterology 54:1898-1901,2007	Primary Hepatic Low-grade B-cell Lymphoma of MALT-type associated with Helicobacter pylori Infection.	飯田 武	第2外科
Hepato-Gastroenterology 54:1798-1804,2007	Pathogenesis of Hepatolithiasis based on the Analysis of Components of Intrahepatic Stones.	内山和久	第2外科
Int J Oncol 31:931-939,2007	Benefits of gene transduction of granulocyte macrophage colony-stimulating factor in cancer vaccine using genetically modified Dendritic cells.	尾島敏康	第2外科
Hepato-Gastroenterology 54:1487-1493,2007	Prevention of Postoperative Infections by Administration of Antimicrobial Agents Immediately before Surgery for Patients with Gastrointestinal Cancers.	内山和久	第2外科
Dis Colon Rectum 50:1585-1593,2007	Clinical Impact of Matrix Metalloproteinase-7 mRNA Expression in the Invasive Front and Inner Surface of Tumor Tissues in Patients with Colorectal Cancer.	東口 崇	第2外科
Langenbecks Arch Surg 392:549-558,2007	Rectal cancer surgery in the elderly: analysis of consecutive 158 patients with stage III rectal cancer.	堀田 司	第2外科
Oncol Rep 18:189-194,2007	Repeat reduction surgery after an initial hepatectomy for patients with colorectal cancer.	松田健司	第2外科
J Gastrointest Surg 11:626-630,2007	Reducing residual and recurrent stones by hepatectomy for hepatolithiasis.	内山和久	第2外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Surgery 141:511-519,2007	Adenoviral vector expressing hepatocyte growth factor promotes liver regeneration by preoperative injection : the advantages of performing selective injection to the remnant lobe.	上野昌樹	第2外科
Int J Cancer 120:585-593,2007	Successful cancer vaccine therapy for carcinoembryonic antigen (CEA) -expressing colon cancer using genetically modified dendritic cells that express CEA and T helper-type 1 cytokines in CEA transgenic mice.	尾島敏康	第2外科
J Surg Res 137:89-95,2007	Effect of normothermic perfusion using fructose-1, 6-bisphosphate for maintenance of liver function during in situ extended hepatectomy by the total hepatic vascular exclusion technique.	植村隆一郎	第2外科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Spine 32(13) 1388-1393, 2007	Safety of epidural administration of Osteogenic Protein-1 (OP-1/BMP-7) Behavioral and macroscopic observation	Kawakami M	整形外科
Spine 32(3) 315-320, 2007	Sarpogrelate hydrochloride, a5-HT2A receptor antagonist, attenuates neurogenic pain induced by nucleus pulposus in rats.	Hashizume H	整形外科
Spine 32 1067-1071, 2007	The effects of bone morphogenetic protein and basic fibroblast growth factor on cultured mesenchymal stem cells for spine fusion.	Minamide A	整形外科
Spine 32(25) 741-747, 2007	Hypothermia Suppresses Excitatory Synaptic Transmission and Neuronal Death Induced by Experimental Ischemia in Spinal Ventral Horn Neurons.	Nishi H	整形外科
Spine 32(10) 1060-1066, 2007	Selective Vulnerability to Ischemia in the Rat Spinal Cord A Comparison Between Ventral and Dorsal Horn Neurons.	Nohda K	整形外科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Archives of Dermatological Research 300 : 485-493, 2008	Effects of adenosine 5'-monophosphate on epidermal turnover	Fukumi Furukawa, Shoko Kanehara, Fumiki Harano ² , Shigeo Shinohara, Junko Kamimura, Shigekatsu Kawabata, Sachiyo Igarashi, Mitsuaki Kawamura, Yuki Yamamoto and Yoshiki Miyachi	和医大皮膚科
Eur J Dermatol 17:448-449, 2007	Open trial of Undershirts Coat Borage Oil on Children with Dermatitis	Shoko Kanehara, Toshio Ohtani, Koji Uede, Fukumi Furukawa	和医大皮膚科
J Dermatol 34 : 811-815, 2007	Clinical Effects of Undershirts with Borage Oil on Children with Dermatitis	Shoko Kanehara, Toshio Ohtani, Koji Uede, and Fukumi Furukawa	和医大皮膚科
Aesthetic Deramtology 18:17-24, 2008	新しい着想による皮膚(肌)置の開発	山本有紀、古川福実 ほか	和医大皮膚科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Vaccine.	Efficacy of a novel oral carbapenem, tebipenem pivoxil (TBM-PI), against experimental otitis media caused by penicillin resistant <i>Streptococcus pneumoniae</i> in chinchilla.	Hotomi M et	耳鼻咽喉科
Eur J Pediatr.	Determination of Pneumococcal Serotypes/ Genotypes in Nasopharyngeal Secretions of Otitis Media children by Multiplex Polymerase chain Reaction.	Billal DS. et	"
J Antimicrob chemother	In Vitro induction and selection of fluoroquinolone-resistant mutants of <i>Streptococcus Pyogenes</i> strains with multiple emm types.	Billal DS et	"
Int J Pediatr Otorhinolaryngol.	Rapid identification of nontypeable and serotype b <i>Haemophilus influenzae</i> from nasopharyngeal secretions by the multiplex PCR.	Billal DS et	"
Otolaryngol Head Neck Surg.	Comprehensive loss of heterozygosity analysis and identification of a novel hotspot at 3p21 in salivary gland neoplasms.	Honjo N et	"
Oral Oncol.	Fine deletion mapping of chromosome 2q21-37 Shows three preferentially deleted regions in oral cancer.	Cengiz B et	"
Allergy	Identification and characterization of native Cry j 3 from Japanese cedar (<i>Cryptomeria japonica</i>) pollen.	Fujimura T et	"
Jpn J Antibiot	Efficacy and safety of potassium clavulanate/amoxicillin (CLAVAMOX) dry syrup in children with otitis media.	Sugita R et	"
耳鼻咽喉科 免疫アレルギー	掌跖角化症における血清SCCの解析。	木村正樹 他	"

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
耳鼻咽喉科 臨床	Auricular Helix Free Flap による外鼻再建例	酒井章博 他	耳鼻咽喉科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したものの中、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Fertility & Sterility 87(1) : 178-181, 2007	Increased type III and V collagen expression in human corpora lutea in early pregnancy	Iwahashi M, Muragaki Y, Ooshima A, Umesaki N	産科婦人科
Anticancer Research 27 : 2721-2728, 2007	Neoadjuvant Chemotherapy with irinotecan and mitomycin-C for locally advanced squamous cell carcinoma of the uterine cervix.	Kokawa K, Nishimura R, Fujii T, Umesaki N	産科婦人科
International Journal of Gynecological Cancer 17(1) : 159-163, 2007	Phase II study of irinotecan plus doxorubicin for early recurrent or platinum-refractory ovarian cancer : interim analysis.	Nishimura S, Tsuda H, Hashiguchi Y, Kokawa K, Nishimura R, Ishiko O, Kamiura S, Hasegawa K, Umesaki N	産科婦人科
European Journal of Gynaecological Oncology 28 : 273-277, 2007	Irradiation reduces bleomycin sensitivity in cervical squamous cancer cells <i>in vitro</i> .	Tanaka T, Yukawa K, Umesaki N	産科婦人科
European Journal of Gynaecological Oncology 28 : 352-355, 2007	Radiation reduces carboplatin sensitivity and enhances nedaplatin sensitivity in cervical squamous carcinoma cells <i>in vitro</i> .	Tanaka T, Yukawa K, Umesaki N	産科婦人科
産婦人科の進歩 59(2) : 89-91, 2007	近畿地区における若年者子宮頸癌の現状と治療 -腫瘍研究部会アンケート調査より-	粉川克司、梅咲直彦	産科婦人科
産婦人科の進歩 59(2) : 115-119, 2007	当科における若年（35歳未満）の子宮頸癌症例の検討 -予後不良症例2例を中心に-	田中和東、粉川克司、南佐和子、岩橋正明、宇都宮智子、八木重孝、帽子英二、池島美和、田中哲二、梅咲直彦	産科婦人科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
和歌山医学 58(2) : 55-59, 2007	若年婦人における骨塩密度に影響を与える諸因子の検討。	池内佳子、梅咲直彦	産科婦人科
日本受精着床学会誌 24(1) : 38-42, 2007	Topoisomerase I inhibitor 誘発卵巣顆粒膜細胞アポトーシスにおけるBCL-2 familyの発現。	宇都宮智子、田中哲二、宇都宮洋才、梅咲直彦	産科婦人科
日本受精着床学会誌. 24(1) : 54-58, 2007	抗癌剤誘発卵巣障害を予防するためのGnRHa療法とGnRHa感受性の個人差。	田中哲二、宇都宮智子、南佐和子、八木重孝、粉川克司、梅咲直彦、宇都宮洋才	産科婦人科
漢方医学 31(1) : 15-21, 2007	子宮内膜症に対する桂枝茯苓丸の作用機序 仮説 -血清中に亢進している抗アポトーシス活性から-。	田中哲二	産科婦人科
エンドometriosis研究会誌 28 : 133-136, 2007	子宮内膜症性囊胞と他の囊胞性付属器腫瘍との鑑別診断における3次元超音波診断の有用性。	田中和東、粉川克司、池島美和、帽子英二、八木重孝、宇都宮智子、南佐和子、岩橋正明、田中哲二、森脇崇之、小口秀紀、梅咲直彦	産科婦人科
Clinical & Experimental Obstetrics and Gynaecology 34 : 179-181, 2007	Long-term personalized GnRH agonist therapy without estrogen supplementation for recurrent endometriotic catamenial pneumothorax: case report.	Tanaka T	産科婦人科
産婦人科の進歩 59(2) : 148-150, 2007	当院における子宮筋腫合併妊娠の検討。	八木重孝、南佐和子、帽子英二、池島美和、田中和東、宇都宮智子、粉川克司、岩橋正明、田中哲二、梅咲直彦	産科婦人科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本口腔外科学会 雑誌第40巻 第2号 (平成20年)...	下顎形不正歯時における舌神経損傷 に対する顎歯鏡下神経縫合を行った 3例	根井慎二・船山雅治 船井修司・畠田達雄 東條裕・藤田茂之	歯科口腔外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したものの中、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床 リハビリテーション	山本のりこ(吉田)著 リハビリテーション	吉田 里子 KIKU	医療技術 部

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Res 67:3210-3219,2007	MEK inhibition enhances nuclear proapoptotic function of p53 in AML cells.	小島 研介	輸血・血液疾患治療部
Int J Clin Oncol 12:56-58,2007	Follicular dendritic cell tumor as an unknown primary tumor.	小島 研介	輸血・血液疾患治療部
Int J Hematol 86(2):196-198,2007	Molecular cloning of translocation breakpoint from der(8)t(3;8)(q27;q24) defines juxtaposition of downstream of C-MYC and upstream of BCL6.	園木 孝志	集学的治療・緩和ケア部

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本救命医療学会雑誌	Surviving sepsis campaign guidelines and the beyond	中 敏夫	救急集中治療部
Spine	Selective vulnerability to ischemia in spinal cord: a comparison between ventral and dorsal horn neurons	Nohda K	救急集中治療部
日本救命医療学会雑誌	ステロイド治療で救命し得た敗血症に伴う急性副腎不全一例	橋本忠浩	救急集中治療部
ICUとCCU	Non renal indication の国際的位置	中 敏夫	救急集中治療部
日本アフェレーシス学会雑誌	Super high-flux hemofiltration	中 敏夫	救急集中治療部

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 畑埜 義雄
管理担当者氏名	事務局長 小山 陽

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病院課 中央病歴部 薬剤部 各診療部門	カルテ、X線写真等は、中央病歴部において集中管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	事務局総務課	
	高度の医療の提供の実績	事務局病院課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務局病院課	
	高度の医療の研修の実績	事務局病院課	
	閲覧実績	事務局病院課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	事務局病院課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	事務局病院課 薬剤部	
	確規保則の第9条の23及び第11条の1各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全推進室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全推進室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進室
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医療安全推進室

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の1各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	事務局病院課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	事務局病院課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	事務局病院課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	事務局病院課	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 畑埜 義雄
閲覧担当者氏名	総務課瀬藤 和雄 病院課長 服部 一宏 医療安全推進室 大西 健生
閲覧の求めに応じる場所	病院課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延	0 件
閲 覧 者 別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地 方 公 共 団 体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	6 7 . 8 %	算 定 期 間	平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日
算	A : 紹 介 患 者 の 数		1 4 , 0 1 4 人
出	B : 他 の 病 院 又 は 診 療 所 に 紹 介 し た 患 者 の 数		1 0 , 6 8 1 人
根	C : 救 急 用 自 動 車 に よ っ て 搬 入 さ れ た 患 者 の 数		5 , 0 5 2 人
拠	D : 初 診 の 患 者 の 数		3 3 , 1 8 4 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input type="radio"/> 有（3名）・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input type="radio"/> 有（1名）・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input type="radio"/> 有・無
<p>・ 所属職員： 専任（3）名 兼任（63）名 ・ 活動の主な内容： ア 医療安全推進部の業務に関する企画立案及び評価 イ 医療安全に関する研修その他職員の意識の向上に関する指導 ウ インシデントレポート及びアクシデントレポートの受理及び分析評価 エ 医療安全推進委員会及び医療事故調査委員会の運営に必要な事務 オ 診療録及び看護記録等の記載事項の確認と指導 カ その他医療の安全推進に必要な業務全般</p>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input type="radio"/> 有・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input type="radio"/> 有・無
<p>・ 指針の主な内容： 医療関係者それぞれが役割分担と責任のもと、連携したチーム医療を推進しインフォームドコンセントを基本として、安全かつ適切な医療の提供体制を確立することを目指して、次の諸規程を制定している。 ア 医療安全推進規程 イ 医療事故発生時の対応マニュアル</p>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容： 平成12年12月1日から「医療安全推進の新制度」をスタートさせて以降、医療安全推進委員会を月1回開催している。 ア 医療事故等の分析と安全管理に係る改善策や院内統一基準の制定 イ 医療安全推進部及びリスクマネージャー会議からの提案事項の審議 ウ 医療事故等の情報開示のあり方の検討 エ その他、医療の安全確保と医療の質の向上に関すること</p>	

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 9回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 : <p style="margin-left: 20px;">平成19年度実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「病院機能評価目前 安全文化を育てよう！」（5月） ・ 「部門での医療安全への取り組み／虐待患者の初期対応」（7月） ・ 「気管カニューレ挿入中のケア（看護職員対象）」（8月） ・ 「虐待患者の初期対応 P A R T 2」（8月） ・ 「インシデントからの教訓、医薬品の安全使用のための研修、患者対応」（10月） ・ DVD研修「危険予知を働くかそう」（11月） 2日間・6回上映 ・ 「輸液ポンプ・シリソジポンプの適正使用／硬膜外カテーテルの管理」（12月） ・ 坂本すが氏による講演「患者と医療者の安全確保—苦情から患者暴力までの対応について—」（1月） ・ 「1年間の総括／リスクマネージャーとして取り組んだ医療安全」（3月） <p style="margin-left: 20px;">平成20年度実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「チーム医療におけるコミュニケーション／医療安全への取り組み」（5月） ・ DVD研修「危険予知（K Y T）について」（6月） 2日間・6回上映 ・ 田邊弁護士による講演「医療事故対応について」（8月） ・ 「危険薬について一抗がん剤の取り扱いー／インシデントから学ぶ危険予知」（9月） ・ 看護部長による講演（10月予定） ・ DVD研修（11月予定） 2日間 ・ DVD研修（1月予定） 2日間 ・ 外部講師による講演（2月予定） ・ 1年間の総括（3月予定） 	
<p>⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ・ ○有・無 ・ その他の改善の方策の主な内容 : <p>医療安全推進規程等に基づいて、院内報告制度を定め、積極的な報告の指導に努めている。また、容易に報告出来るようにシステム改善を行っている。</p> <p>インシデントレポートの迅速かつ適切な分析等に努めるとともに、リスクマネージャー会議を通じて、医療安全推進策の検討と情報共有を推進している。</p> <p>医療安全推進部にA I事例検討会を設置しアクシデントレポート及びインシデントレポートの具体的課題に関して迅速かつ集中的に分析検討する。</p> <p>更にアクシデントレポートは、医療安全推進委員会で改善策の検討協議を行うとともに、医療事故調査委員会での審議を必要とするものについては、隨時、同委員会での審議を求めている。</p>	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	<input type="radio"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的な考え方 院内感染対策の組織に関する基本的事項（設置組織・所掌事務等） 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 院内感染発生時の対応に関する基本指針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： 感染症の予防に関する方針の策定 感染症予防対策の部門間調整 感染症に関する検査報告、経過、原因の追跡調査及び整理分析 感染症予防に係る指導及び勧告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 感染対策の基礎知識 抗菌薬の適正使用 結核に対する感染対策 インフルエンザ対策 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p style="margin-left: 20px;">(○有・無)</p> <p style="margin-left: 20px;">病棟ラウンドの実施 感染症治療及び感染制御に関するコンサルテーションの実施 サーベイランスの実施と院内へのフィードバック 感染対策マニュアルの見直し及び改訂</p>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 : <p>【本年】危険薬について～抗がん剤の取り扱い～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 抗がん剤のレジメン管理 2. 抗がん剤の無菌調整（ミキシング） 3. 施行時の注意点、投与中の血管外漏出 4. 患者に対する薬剤説明 <p>等について研修を行った。</p> 	<p>【昨年】医薬品の安全使用について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 改正医療法 2. 医薬品の安全管理体制 3. 業務手順書について 4. 特に安全管理が必要な医薬品
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (○有・無) ・ 業務の主な内容：手順書に基づいて業務が行われているかをチェックリストを作成し確認を行っている。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： チェックリストによって確認後、改善が必要とおもわれる業務については、当該部署と相談し適宜改善策を検討している。また、業務手順書の見直しも行っている。 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：シリンジポンプ・輸液ポンプの安全な使用方法 除細動器の原理及び使用方法 呼吸器の原理及び使用方法 電気メスの原理及び使用方法 電源設備の安全な使用方法	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">計画の策定 (○有・無)保守点検の主な内容：人工心肺・呼吸器・電気メス・除細動器・シリンジポンプ類などの精度及び電気的安全点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)その他の改善の方策の主な内容：医療従事者における医療機器の動作元（電気・医用ガス等）の把握	